

COVID-19 後の地域，社会，そして我々

井出明（金沢大学）

新型コロナウイルスの影響により、我々が生きる世界は大きく変容しました。今回の基調講演では、私が専門としている観光学の視点を軸に、現代社会を概観します。以下は、暫定的な目次となっており、この順にお話させていただこうと思っております。

目次案（暫定：β版）

I 今、生きる世界

コロナ禍の世界は、歴史的にはどういう位置づけになるのでしょうか？ 国境が閉じられ、中世・近代への揺り戻しが起きているという論者もいる一方で、全く新しい時代が生まれつつあるという向きもある。そこで、講演の冒頭では、現状をポストモダンの観点から問い直す。

1. 我々が生きてきたポストモダン社会
2. 3月の状況
3. 11月の状況
4. ポストポストモダンへ

II 観光から考える

昨年までの状況を鑑みた時、あれほどの観光産業の隆盛は人類にとって未曾有の体験であった。しかし、海外渡航を中心として人々の移動が制約を受けている現状は、社会の本質を分析する上で、これまでになかった視座を我々に示しているとも言えよう。こうした問題意識に基づき、講演の核となる本パートでは、観光学者特有の観点から、コロナ禍の社会を鳥瞰し、明日を探ってみたい。

1. 人が動けなくなった社会
2. 新型コロナウイルス流行後の観光の動向
3. マイクロツーリズムは実現するか
4. アートツーリズムの難しさ
5. 出張と兼観光
6. MICE の壊滅
7. 万博への対応

III イノベーションを阻むもの

現在、在宅勤務やワーケーションの旗が振られる一方で、大学については対面授業が要請されるなど、一見相反する事象が併存している。コロナ禍は高度情報化社会のブースターになりうるというポジティブな見方を踏まえ、新しいイノベーションのあり方について考える。

1. ニューノーマルのイノベーション

2. 個人と公
3. 都市と地方
4. 教育の再定義
5. 信頼の醸成

IV 総括

全体を通じてまとめを行うとともに、いただいた質問にお答えする。